

## 盗まれた医療者：数百人のパレスチナ人医師がイスラエル獄舎へ消えた

カヴィタ・チェクル（エミー賞ノミネート・ジャーナリスト）著、脇浜義明訳  
The Intercept, 2024年5月24日

オサイド・アルセルがハーン・ユニス市のナセル病院の外科医をしているいとこのハレド・アル・セルから連絡をもらってから2カ月になる。3月下旬までは二人は定期的—通信不安定の中で可能なかぎり定期的に—連絡を取り合っていた。アル・セルは遠距離治療のワッツアップ・グループを立ち上げ、米国の外科研修医であるオサイドと一緒に、ガザで疲労困憊しながら無理している仲間の医師に助言する医師を米国、英国、欧州からリクルートした。

「アルは銃弾で負傷した70歳の老女のことを連絡してきました。弾は老女の頭のなかにあったのですが、当時はナセル病院に脳神経外科医がいなかったのです」とオサイドは話した。「彼はそういう事例を発信して助けを求めました。『アドバイスしてくれる脳神経外科医はいませんか。どのように治療したらよいのか教えてください』と発信したのです。」



2018年1月、ガザ地区のカーン・ユニスにあるナセル病院の前で撮影されたセルフィーのハレド・アル・セル。(Courtesy: Healthcare Workers Watch – Palestine)

アル・セルはグループ・チャット利用で集団的医学知識を自然に貯め込みシェアした。「彼はいつも困った人を助け、いつも骨身を惜しまず働き、問題があれば何とか解決し、すぐに影響を与える人物でした」とオサイドが語った。

2月、ナセル病院はイスラエル軍の攻撃を受けた。この攻撃によって病院は空洞化した。治療できない患者数に圧倒され、イスラエルの容赦ない攻撃で破壊された医療センターの一つとなった。それでも、アル・セルは挫けなかった。3月半ばに彼の最後のインスタグラムがアップロードされた。それは前日の病院の概観を映した画像に、次のような誇り高いメッセージが添えられたものだった。

やったぞ！ナセル病院は一か月以上にわたって電気がなかったが、スタッフは発電機を修繕して、やっと病院に電気を回復した。この2週間、私たちは瓦礫を片づけ、掃除をし、治療を再開する準備をしてきた。

6日後の3月24日、またもやイスラエル軍が病院を襲撃した。オサイドは数日前にアル・セルに無事かどうかの消息を探る電話を入れた。通じなかった。それが最後だった。

親族は、ハレド・アル・セルは、残り少ない病院スタッフといっしょに、イスラエル軍に捕虜として連れ去られた、と思っている。

早くも去年の11月に、ガザ北部で行方不明になった医師たちがイスラエルに拘留されていると

という報告があった。世界保健機構が、少なくとも214人のガザの医療従事者がイスラエル軍によって拘留されたと伝えた。5月上旬に、イスラエル当局が、アル・シファ病院の有名な外科医で整形外科部長だったアドナン・アル・ブルシュの死亡を発表したとき、ガザの医師がイスラエル軍に拘留され、どうやら拷問されたというニュースがヘッドライン見出しとなった。アル・ブルシュは去年12月に拘留され、当局発表によると、占領地西岸地区にあるイスラエルの拘留施設であるオフエル刑務所で、4月に死亡した。先週、国連の健康権利に関する特別報告者であるトラレン・モフォケンが「アドナン医師の死亡はイスラエル当局の拷問によるものという重大な問題を提起している。彼の死を国際社会が調査する必要がある。医療従事者を捉えたり殺害するのは合法的な戦争行為ではない。医療従事者は戦争の中で病人や怪我人を治療する正当で重要な任務を持っている」という声明をだした<sup>1</sup>。



ガザ保健省によると、アル・ブルシュは、10月7日以降ガザで殺害された少なくとも493人のパレスチナ人医療従事者の一人である。イスラエル軍は、ハマスが病院を陣地に行っていると行って、ガザ北部から南部までの病院をしらみつぶしに攻撃してきた。病院側はハマスの陣地というイスラエルの言い分を何度も否定した。今週もイスラエル軍はガザ北部のカマル・アドワン病院とアル・アウダ病院を攻撃し、22日と23日にアル・アウダ病院の医療スタッフが拘留されたというニュースが流れた。

去年の年末までにイスラエル地上軍はガザ南部へ侵攻し、ハーン・ユーニス市内の病院への攻撃が増加した。2月、イスラエル軍がナセル病院を包囲したとき、アル・セルは病院でただ一人の一般外科医だった。

「彼は大変献身的な医師です」と、以前ナセル病院で勤務したことがある形成外科医のアハメド・モグラビがアル・セルについて語った。イスラエル軍の病院攻撃が激しくなるが、国際メディアはそれをあまりニュース報道しなかったため、両医師はイスラエル軍の攻撃で恐ろしい状態となったナセル病院の惨状を何度もネットにポストした。「子どもたちや女性がズタズタに引き裂かれたひどい状態を目の当たりにしたのです。世界にここで起きていることを知って欲しかったのです」と、モグラビはSNSへのポストを始めた理由を、インターセプトの取材に対して言った。

彼が最後にアル・セルを見たのは2月だった。「奴ら（イスラエル軍）は病院を包囲しました。3週間も包囲され、攻撃され続けました。私たちは病棟間の移動もできませんでした。窓から外を見ることもできませんでした。窓に近づくと、狙撃兵の標的になったからです」と、彼は当時を思い起こして語った。

モグラビは、最初のイスラエル軍の侵攻があったときの2月中旬に、ナセル病院を出た。「真夜中に脱出したのです。イスラエル軍は病院の入り口の近くに検問所を作って、誰かれなく片っ端か

---

<sup>1</sup>イスラエルはガザでジェノサイドという民族浄化をやっている。ジェノサイドは単に虐殺するだけでなく、病院や学校など市民的インフラの破壊、ポリティサイドという政治的能力の破壊、文化の破壊、つまり、民族が生活・生存できないようにすることで、生命を維持する役割を担う医師の除去は、イスラエルにとって重要なジェノサイドである。

ら尋問しました。私を手伝ってくれた看護師も検問所で尋問され、2カ月間拘留されました。

オサイドによると、アル・セルも2月の脱出のすぐあとで、両親の様子を見るためにラファ市へ行ったが、すぐに病院へ戻って何とか治療を再開しようとした。

3月下旬のイスラエル軍のナセル病院攻撃以降は、アル・セルに関するニュースはほとんどなかった。僅かに聞こえてくる情報は悪いことばかりであった。4月半ばにワッツアップにサインインしたのが最後だった。「4月12日の彼のオンライン活動が最後でした。奴らは彼の携帯電話を没収したようです。彼の携帯電話から情報を収集しているのです」とオサイドが言った。

数日後の4月17日、レバノンの汎アラブ主義衛星TVニュースチャンネルの『アル・マヤディーン』が、イスラエル軍に拘留されていて釈放されたばかりのアハメド・アブ・アケルというパレスチナ人へのインタビューを放映した。アブ・アケルは以前ナセル病院で勤務していた看護師だと、モグラビが「インターセプト」に言った。アブ・アケルは、イスラエル獄舎から解放されたパレスチナ人がよく着る灰色の上下のトレーナー姿であった。彼は拘留中のナセル病院の医師たちのことを語った。

「毎日、殴打、殺害、拷問の連続でした。医療複合センター・ナセル病院の整形外科部長だったナヘド・アブ・タッイマー医師のことを話します。先生は大変困難な状態、苦しい悲劇的な状態で苦しんでいます。絶対に治療を受けなければならない状態で、赤十字に診てもらうためにすぐに釈放されるべきです。

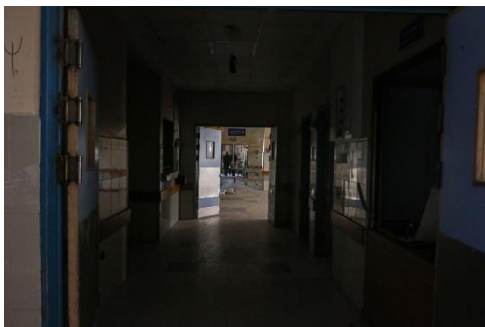
「私の隣の隣の房に同僚の囚人がいました。名前はハレドという人です。奴らは私に見せつけて、彼の髭をプライヤーで全部引き抜く拷問をしました。こういう拷問は日常茶飯事に行われています。」

オサイドはアブ・アケルが語っているのはハレド・アル・セルに間違いはないと思った。

アブ・アケルはアル・セルが拘留されている場所（まだ彼が活着しているなら）を言わなかったが、オサイドは、たぶんネゲフ砂漠にあるイスラエル基地兼拘置所であるスデ・テイマン収容所だろうと思った。スデ・テイマン収容所に関しては、虐待、拷問、殺害が繰り返されているという噂がいっぱいある。

このインタビュー放映の後「インターセプト」はイスラエル軍に質問を出したが、軍の報道官は、拘留中のパレスチナ人医療従事者に関する個別質問には答えられないが、噂になっている虐待はないと否定した。「拘禁中や尋問中の拘留者の虐待はイスラエル国防軍の価値観と規律に反するもので、断固禁止されている」と報道官は返答に書いていた。「もし不適切な処遇に関して具体的な不服が提起されれば、我々は然るべき関係当局に調査するように送ります。」

アブ・アケルの曖昧な証言とワッツアップの小さな情報以外にアル・セルの所在やどういう状態にあるかの情報はまったくないのだ。「愛する人について何も分からないというのはつらいことです。彼が活着しているのかどうか、活着しているならどういう状態にあるのか、何も分からないのです」と、オサイドは語った。



ハーン・ユニスにあるナセル病院内の空っぽの廊下。

幸い拘留施設から釈放されたパレスチナ人の話から、イスラエルの拘留施設で何が行われているのかを、垣間見ることができる。

外科医のハレド・ハムーダは、12月、ガザ北部のカマル・アドワン病院で働いていた。彼は1カ月前にインドネシア病院からカマル・アドワン病院へ、患者として移ってきたのである。患者兼医師という立場であった。ベイト・ラヒアの自宅



を空爆されたときに負った傷の手当を受けていたのだ。空爆では、妻、娘、弟、父が死亡、その他の親族も死傷した。



10日後、カマル・アドワン病院にも攻撃、イスラエル軍は医療スタッフと病院に避難している人々に立ち退きを命じた。軍は病院管理者に立ち退いて他の病院へ移れ、その間逮捕したりしないと告げた。しかし、それは嘘だっ

た。ハムーダと同僚たちは逮捕・連行された。

「病院攻撃のとき、奴らは15歳以上55歳以下の男たちにIDを持って病院から出よと言った」とハムーダはそのときの様子を語った。みんな目隠しされ、両手を縛られ、何処か分からないところへ連れて行かれた。

それから間もなくして、イスラエル兵に捕らえられた拘留者たち数十人の画像がSNSで流れた。一つの画像には、何人かの男たちが裸で立たされてイスラエル兵に写真に撮られている写真があった。その男たちの中にハムーダがいた。

「あれは、私たちがイスラエル軍によってカマル・アドワン病院から連れ出され、写真に撮られた日の写真です。私が覚えているのはそのことだけです。その写真がSNSに出るまで、何がどうなっているのか、私たちには何もわかりませんでした。」とハムーダが語った。

結局、彼と仲間たちはスデ・テイマン収容所へ連れて行かれた。彼らは跪けと強制された。ぐずぐずしていると殴打された。「手を高くあげてそのままの姿勢で3~4時間立ってると命令された人もいました」と彼は語った。「不幸にも私が一般外科医だと分かると、扱いがひどくなりました。背中や顔を殴られる虐待が始まりました。」イスラエル兵たちはハムーダに人質となっているイスラエル人のことを知っているかと厳しく尋問した。彼は人質なんて何も知らなかった。

拘留中、彼は医療界の知人に会った。アドナン・アル・ブルシュ医師である。「奴らは夜中の2時か3時ごろにアドナン医師を連れ込んできました。ひどい虐待を受け、苦しんでいました。私に、『ハレド君、ひどく殴られたよ。獰猛な犬のように攻撃されたんだ』と言いました」とハムーダが言った。アル・ブルシュは肋骨が折れていると言った。ハムーダは薬と少しばかりの食べ物を手に入れ、アル・ブルシュ医師に与えた。2日後、怪我人の医師はどこかへ連れ去られた。

アル・ブルシュは、自分のひどい状態と厳しい牢獄の状態におかかわらず、ハムーダに情報をもたらした。「あなたのお母さんはアル・アウダ病院にいて、無事だよ。私がお母さんを治療した」とハムーダに告げた。ハムーダはこの情報に感謝した。「この情報は私にとってとっても貴重でした。だって、私は家族のこと、とりわけ母さんのことを何も知らなかったからです。私はアル・ブルシュ医師を抱きしめて、顔に何回も口づけし、彼に感謝しました。刑務所を出たとき母さんに会える希望が生まれたからです。」

それから3週後にハムーダは釈放された。彼と他の拘留者たちは南部のケレム・シャローム検問所へ連れて行かれた。釈放された後、結局ラファへ向かった、と「インターセプト」に語った。まだ生存している子どもたちと母は北部にいて、彼らとやっと再会できたのは2か月後であった。それでも、自分は釈放されたので運が良いと彼は考えていた。

「私といっしょに逮捕された医師、私より前に逮捕された医師、私の後に逮捕された医師、同僚たちは3~5か月間拘留され、まだ刑務所にいる人たちもいます」とハムーダは語った。

この戦争の前でも、医師はガザでは貴重な存在であった。イスラエルの国境制限や軍事攻撃の荒波が押し寄せる状況の中では医師の存在は重要であった。「2～3年ごとに私たちは戦争やイスラエル軍の攻撃に巻き込まれます。戦争や攻撃の中にいる人々にとって私たちの存在は重要です。」

ハムーダの父も医師で、息子が跡を継ぐことを望んだ。「父は私に医師になれと勧めました。医師の仕事は人々のためになるからと言って」とハムーダは言った。

ハムーダは、人々を治療する必要を実践するからこそ、イスラエル軍は医療従事者を攻撃標的にしているのだと思っている。「奴らが怪我人を治療する人の家を狙い撃ちして攻撃しているのはそのため、決して偶然ではありません。ガザ北部の状況はすっかり変わってしまいました。」



オサイドもハムーダと同じ思いで、アル・セルもこの思いに賛成したであろうと、彼は言った。3人とも人を助けるために医師になったのだ。「多くの殺戮と攻撃が続いているので、人々が負う外傷を治療する外科医が常に必要とされています。だから、ガザで育った私が医者になって怪我人を治療したいと思うようになったのは、自然な反応でした」とオサイド。

ガザ南部のナセル病院で破壊された救急車 (Photo: Rizek Abdeljawad/Xinhua via Getty Images)

アル・セルのインスタグラムは自分の前に洪水のように運ばれてきた悲惨な事例の記録となっている。榴散弾や弾丸で身体を引き裂かれた市民の絶え間ない流れ、治療がナセル病院への繰り返される攻撃に中断せざる得ない状態が記録されている。彼の最後の病院からのインスタグラム投稿は、イスラエル軍の病院への2月攻撃のときに2人の赤ちゃんが生まれた事例で、悲惨の中で微かな希望をおおわせるものだった。

アル・セルは危険の中あえて病院の外へ出て、付近の惨状を映像にしてインスタグラム投稿した。戦争ですべての人や物が影響を受けている。家の施設も何もかもが瓦礫の山となり、彼の自宅への帰り道も瓦礫の中に埋もれていることを示す短い映像であった。「アル・セルはいつも家族を作りがっていました。子どもを持ち、家庭生活を築き、穏やかに暮らしたかったのです」とオサイドが言った。

今やアル・セルからの連絡が2か月間途絶え、彼の人生の夢ははるか遠くのものとなった。

「彼は勇敢な人でした。困難な中で仕事をきちんとやった。外科医としての私たちの仕事は、ただ傷の治療だけではなく、患者を守ることです。彼は患者を守りました。彼が無事であることを心から願っています。」